



石神井南中学校 学校だより

令和 3年度 第 7号
発行日 11月30日(火)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

「一本のフユザクラのように」

校長 田邊 克宣

立冬も過ぎ、本格的な冬を控えた数週間前、出勤途中の千川通りに花開く一本の樹を見付けました。桜です。

いわゆる「フユザクラ」の知識はありましたが、実際にこの時期に咲く桜を目の当たりにしたのは初めてです。寡聞にして知らなかったのですが、江戸時代から様々に品種改良され、約600種もある桜のうち、約6種類は秋から冬に咲くのだそうです。紅に黄色に色づき、落ち葉が風に舞う街路樹の中において、その一本だけは、ほのかな白と桜色の花びらが綿菓子のように朝陽を照り返していました。花卉やガクの特徴を観察しましたが、残念ながらその種類を特定することはできませんでした。今後さらに調べていこうと思いますが、それを見ながら考えたのは、“多様性”ということです。同じ桜でありながら、大半は春に咲く中で、たった1%だけは秋に咲く。春満開の桜に比べて、立ち止まって見上げる人はいなくても、ヒトの目など気にすることなく、自分のあるべき姿として咲き誇るその様子に、凜とした潔さを覚えた次第です。

学校は同調圧力の強い場所といわれていますが、集団の中で培う社会性や協調性は、やがて社会へ出た時に必要な資質となります。同時に、大勢に付和雷同することなく、自分の意見をしっかりともち、それを主張しながら、他者の意見にも耳を傾け、互いに納得解を模索しながら歩み寄っていける、主体性と寛容性を併せもった人が、これからの社会で求められているのではないかと考えます。

学校という社会の中で、子供たちは、日々学習しています。教科の学びはもちろん、人間関係の機微にいたるまで、やがて一人前の大人として自律できる力を養うための営みです。学んだことを養分として蓄え、やがて花開くのはいつになるのか、またそれはどんな花であるのか、一人一人みんな違います。大切なのは、自分らしく、ということ。石南中の生徒たちに、それぞれの個にふさわしい花を開かせてやるために、学校としてできる限りの取組を行ってまいります。

さて、令和3年も後ひと月となりました。日本では新型コロナウイルスの感染がひとまずは沈静化しておりますが、第6波の懸念もある中、さらなる変異種の発見が報道されました。日常生活における行動制限についても、いろいろな場面で緩和されておりますが、本校としては、引き続き細心の注意を払いながら感染予防に努めてまいります。

学校では、校長、副校長による3年生の面接練習が始まりました。緊張した面持ちで受け答えする姿を見るにつけ、生徒一人一人の成長を感じるとともに、全員が希望を叶えられることを願うばかりです。そのためには、新型コロナウイルスのみならず、インフルエンザやノロウイルス等も含めて、感染防止対策を徹底しながら、健康な学校生活を継続することが大前提条件となります。石南中の3年生が安心して進路に向かって取り組むために、また、1、2年生が落ち着いて学校生活を送り、石南中の伝統をしっかりと受け継いでいくために、保護者、地域の皆様におかれましても、感染拡大防止の意識を緩めることなく、また、学校公開の再開見合わせ等についてもご理解いただきたく、お願い申し上げます。

新型コロナウイルスについては、生徒に対して「安全」と言えるようになるまで、今暫らくは教育活動に厳しい制限をかけていきますことを、どうぞご容赦ください。

～今月の表彰～

税の作文	3年1組	福渡 瑞季さん	「東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞」
	3年1組	斎藤 千倅さん	「練馬西税務署長賞」
	3年2組	齋藤 唯奈さん	「練馬西納税貯蓄組合連合会会長賞」
	3年2組	茂木 美歩結さん	「練馬西納税貯蓄組合連合会会長賞」
	3年1組	隅田 太一くん	「練馬西納税貯蓄組合連合会優秀賞」

税の標語	第2学年生徒		「練馬西間税会会長賞」
	2年3組	橋田 紗季さん	「優秀賞」
	2年3組	中村 俐月くん	「佳作」

珠算	2年3組	小森 隼人くん	「第55回練馬区珠算コンクール銅賞」
----	------	---------	--------------------

部活動	演劇部「スクールおばけ」		「練馬区立中学校連合演劇発表会」優れた成績
-----	--------------	--	-----------------------

★本校の良いところ★

先週から3年生の面接練習が始まっています。生徒は皆緊張した面持ちながらも、真剣に取り組んでいます。様々な質問の中で、「あなたの学校の良いところは何ですか」と聞いたところ、ほぼ全ての生徒が「挨拶」について答えてくれました。私もその通りだと思います。廊下ですれ違う時に「こんにちは」という言葉を交わすだけでなく、明るい笑顔とともに軽く会釈したり、歩いていると一度立ち止まってお辞儀したりすることができます。挨拶ができる学校は他にも多くあると思いますが、このような心のこもった挨拶は、なかなか簡単にできるものではありません。伝統が脈々と引き継がれていることを感じています。本校の良いところは、その他にもたくさんあります。今後もそれらを大切にしつつ、さらに発展させていけるとよいと思います。

◆服のチカラプロジェクト◆

生徒会活動の一つ「服のチカラプロジェクト」では、下石神井小学校からの多大な協力も得て、合計約4900枚（段ボール35箱）もの服を集めることができました。本校はこのプロジェクトに参加して5年ほどになりますが、今回は、生徒会役員が小学校へ活動の趣旨等を記した手紙と共に協力を依頼したこともあって、小学校からも例年以上の協力を得ることができ、大きな成果につながりました。相手にお時間をいただいて丁寧に説明し、こちらの気持ちを伝えることは、周りから協力を得るために必要なことであるということも同時に学べたように思います。もちろん、至らない点も多々あったに違いありませんが、それにもかかわらず、今回ご協力くださった本校のご家庭はもとより、下石神井小学校及び児童・保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、それらの服を小学校から本校へ運んだり、その後箱に仕分けしたりする際には、たくさんの生徒が協力してくれました。生徒会活動を役員だけが頑張るのではなく、たくさんの生徒が協力する姿は、生徒会活動が活発な証拠であり、本校の誇れる一つではないかと思えます。（副校長）

